

「OPEN SITE (オープンサイト) 2016-2017」 Part 1/Part 2

Part 1 | 2016年10月15日(土) - 11月13日(日)

Part 2 | 2016年11月26日(土) - 12月25日(日)

トーキョーワンダーサイト本郷

OPEN SITE

TWS の新しいアート・プラットフォーム・プログラムが始動します！



オープンサイトは若手アーティストの発掘・育成、実験的創造活動の支援を行うアートセンター、トーキョーワンダーサイト (TWS) が立ち上げた、全ての表現に門戸を開いた新しい形のプラットフォームです。アートの領域横断化がますます加速し、既存のジャンルの持つ意味が改めて問い直されている現在、音楽、美術、演劇、ダンス……、様々な分野にルーツを持ちながらも、これまでにない表現を志向し、社会へと問いかけていく意欲的な企画を紹介します。国内外から集まった 250 を超える応募から選ばれた 16 の公募企画と、TWS が推奨する 4 つの企画を、半年間にわたり TWS 本郷で実施。観る人にも、表現する人にもオープンでクリエイティブな創造の場 (= サイト) を目指してスタートしたプログラムに、是非ご期待ください。本プレスリリースでは、年内に開催する Part 1, Part2 の企画をご案内します。

会場： トーキョーワンダーサイト本郷 (東京都文京区本郷 2-4-16)

休館日： 月曜日

主催： 公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト

ウェブサイト： <http://www.tokyo-ws.org>

<お問い合わせ> 〒135-0022 東京都江東区三好 4-1-1 東京都現代美術館内
 公益財団法人東京都歴史文化財団トーキョーワンダーサイト
 広報担当：市川、藤井 TEL: 03-5602-9881 FAX: 03-5602-9882 E-mail: press@tokyo-ws.org

■実施企画

【プロジェクト A】

パフォーマンス、現代音楽、ワークショップ、スクリーニング、演劇、ダンスなど、時間を軸に展開する企画。

公演スケジュールは企画により異なります。鑑賞にはチケットが必要です。

入場料：有料（各企画によって異なります）詳細はTWS ウェブサイトをご覧ください。

会期	企画者名（拠点）	企画タイトル
Part 1	小宮知久（日本）	「泳ぎつづけなければならない」
	ジェイム・アイバニーズ（オランダ）	「コンテンポラリー・プリミティブ・アニメーション」
Part 2	アレクサンドラ・ニエンチク（ノルウェー）	「ISHI」
	デシベル・ニュー・ミュージック・アンサンブル （オーストラリア）	「チャンス・フィギュレーション」
	バイナリー [リナ・アンドノヴスカ&ジャネット・マッケイ] （オーストラリア）	「バイナリー：二本のフルートのためのコンサート」
	西尾佳織（日本）	「2020」

【プロジェクト B】

展覧会、リサーチ・プロジェクトの展示発表、ディスカッション・プラットフォームの創造など、空間に展開する企画。

各企画ともTWS本郷の開館時間内（11:00-19:00）に鑑賞いただけます（無料）。

会期	企画者名（拠点）	企画タイトル
Part 1	荒木優光（日本）	「Acoustic Device 騒音のための5楽章」
	POST-ER OFFICE 実行委員会（日本）	「POST-ER OFFICE」
Part 2	永田康祐（日本）	「Therapist」
	柯念璞（コー・ネンープ）（台湾）	「旗、越境者と無法地帯」

各企画の概要、公演日時、チケット料金等の詳細は p.3-7 をご参照ください。

■企画情報 [プロジェクト A]

※内容は企画者から提供を受けた資料に基づきます。

小宮知久「泳ぎつづけなければならない」

公募プログラム

コンサート

公演日時：2016年10月21日（金）、22日（土）19:30開演（19:00開場） | 料金：1,500円



内容：

生成される楽譜を演奏者が初見で演奏するライブ・エレクトロニクス作品の公演。楽譜とエレクトロニクスは声（演奏）がトリガーとなって生成され、演奏者がその楽譜を歌い続ける限り、演奏/生成のプロセスは際限なく繰り返される。メディア・テクノロジーによって暴走し、拘束する「声」の洪水を、私たちは泳ぎつづけなければならない。

参加アーティスト：

根本真澄、金沢青児、善養寺彩代、小宮知久

企画者プロフィール：1993年神奈川県生まれ。東京藝術大学音楽学部作曲科を卒業。同大学院音楽研究科作曲専攻在籍中。音楽や音を演奏/聴取する身体とメディア・テクノロジーの関係を軸に、アコースティックな現代音楽からライブ・エレクトロニクス、サウンド・インスタレーションまで幅広く制作している。

ジェーム・アイバニース「コンテンポラリー・プリミティブ・アニメーション」

公募プログラム

ワークショップ

ワークショップ：2016年11月3日（木・祝）、5日（土）13:00 - 18:00、6日（日）11:00 - 14:00

パフォーマンス

プレゼンテーション：2016年11月6日（日）16:00 - 18:00 | 料金：500円 ※ワークショップ参加は無料



内容：

プリミティブ・アニメーションとは何か？身近にあるシンプルな素材で作られたストーリー・テリング・マシンを使って、ジェーム・アイバニースが創り出す原始的な形態のアニメーション。それは絵、パフォーマンス、映像と音楽を融合した、新しい形の物語スタイルである。ワークショップの参加者と共に、それぞれのプリミティブ・アニメーションの制作と発表を行います。

※ワークショップの参加方法等はTWSウェブサイトをご覧ください。

企画者プロフィール：アカデミー・ミネルヴァ（オランダ）で美術を学び、オランダ・フローニンゲンを拠点に活動するアーティスト。ストーリー、キャラクター、オブジェクト、シーン、サウンドスケープなどを多層的に用いたストーリー・テリングの実験を行う。また、演劇と映像、インスタレーションを統合した、直感的で遊び心のある作品を制作している。

■企画情報 [プロジェクト A]

※内容は企画者から提供を受けた資料に基づきます。

アレクサンドラ・ニエンチク「ISHI」

公募プログラム

ビデオ
インスタレーション会期：2016年11月26日（土）－12月3日（土）11:00 - 19:00（11月28日（月）は休館）
※開館中いつでもご覧いただけます。 | 料金：無料

Installation Film «Baba Vanga»

内容：

地球上に残った最後の人類となった女性 Ishi による映像日記には、徐々に崩壊してゆく文明の記録を通じ、人類滅亡後の世界が描き出されている。古い手紙、腐食した金属、奇妙な機械などの人工物が、長い時を経て衰退し、失われた文明を想起させ、それらの人工物と重なり合った映像が、私たち人類が支配した地球の最後の日々を証言する。

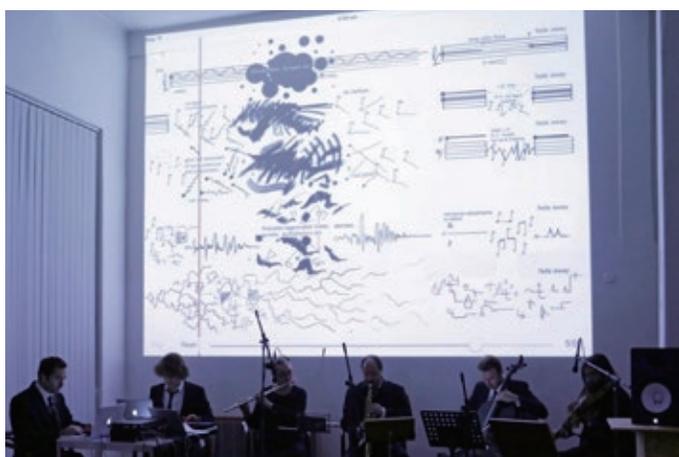
企画者プロフィール：1977年ポーランド生まれ。オスロで活動する画家、映像作家。サラエボで修士課程（映像）に在籍中、映画監督タル・ベーラの指導を受けて制作した「Baba Vanga」が、ポーランドの Nowe Horyzonty 映画祭で上映される。独自の映画的言語を用いた映像やマルチメディア作品で、衰退、生存、記憶、文化などのテーマを追求している。

協力：Vederlagsfond Prosjektstøtte Norway

デシベル・ニュー・ミュージック・アンサンブル「チャンス・フィギュレーション」

公募プログラム

コンサート

公演日時：2016年12月9日（金）、10日（土）19:30 開演（開場 18:30） | 料金：2,500円
プレトーク 18:45-19:15 ※両日とも

内容：

デシベル・ニュー・ミュージック・アンサンブルが開発する Decibel ScorePlayer（デジタル図形スコア）を使用して、偶然性音楽の新たなアウトプットの可能性を模索する二日間のコンサート。1日目はジョン・ケージの Variations I-VIII の全曲演奏（日本初！）プログラム、二日目はアンサンブルとコラボレートする4名の作曲家の新曲プログラムを演奏します。

【演目】

12月9日（金）

ジョン・ケージ・コンプリート・ヴァリエーションズ

12月10日（土）

チャンス・フィギュレーション・コラボレーションズ

企画者プロフィール：西オーストラリアを拠点に、楽器とエレクトロニクスの融合や、デジタル楽譜と作曲/演奏の拡張性を探求する現代音楽アンサンブル。2009年の結成以来、世界各国での公演、60曲を超える委嘱、5枚のソロアルバムのリリースなど活動は多岐にわたる。また、携帯型スコアフォーマットとネットワーク同期演奏環境を応用した新しい図形デジタル楽譜 Decibel ScorePlayer（iPad アプリ）の開発も手がけ、商品化されている。

協力：MA Lab、Western Australian Department of Culture and the Arts、Edith Cowan University

■企画情報 [プロジェクト A]

※内容は企画者から提供を受けた資料に基づきます。

バイナリー(リナ・アンドノヴスカ&ジャネット・マッケイ)「バイナリー：二本のフルートのためのコンサート」 推奨プログラム

コンサート

公演日時：2016年12月16日(金)、17日(土) 19:15開演(開場18:45) | 料金：2,000円
(TOKYO EXPERIMENTAL FESTIVAL Vol.10 最優秀賞受賞)

内容：

フルート・デュオのための現代曲にフォーカスした魅惑的なプログラムで、バイナリーが音楽的、身体的な限界へと挑戦する意欲的なコンサート。アルト・フルート、バス・フルートのための作品も取り入れ、奥深くもパワフルで、エネルギーに満ちた音楽を披露する。

企画者プロフィール：2013年にオーストラリア・フルート・フェスティバルで出会ったリナ・アンドノヴスカとジャネット・マッケイにより、2014年に結成されたデュオ。デビュー以来、精力的な活動を続け、2015年にはトーキョー・エクスペリメンタル・フェスティバルで最優秀賞を受賞。二人のフルートの多様なサウンドと革新的な演奏は各所から高く評価されており、今後もデュオのための作品の委嘱によりレパートリーを増やしていく予定。

西尾佳織「2020」

公募プログラム

演劇

公演日時：2016年12月22日(木) 19:30、23日(金・祝) 15:00/19:30
24日(土) 15:00/19:30、25日(日) 14:00
※開場は開演の30分前 | 料金：2,000円

内容：

2020年は、二度目の東京オリンピックが開催される年であり、またマレーシアが「2020年までに先進国入りする」と宣言した年でもある。本作品では、幼少期をクアラルンプールで過ごした作家個人の視点から、「正しい」歴史をもう一度編み直してみる。〈進歩〉という夢から、わたしたちは降りることが出来るだろうか？

企画者プロフィール：鳥公園の西尾佳織による個人企画。鳥公園では、俳優とのディスカッションやエチュード等の共同作業から台本・上演をつくっているが、今一度、劇作/演出/演技の担う領域について検証したいという思いからこの企画を開始。当事者性はどこまで拡張・変形できるだろう？「私」の話をいかに別の「私」に手渡すことができるだろうか？

協力：鳥公園

助成：公益財団法人セゾン文化財団

■企画情報 [プロジェクト B]

Part 1

会期 | 2016年10月15日(土) - 11月13日(日)

オープニングトーク | 2016年10月16日(日) 15:00 - 17:00 出演: 荒木優光、井上文雄 (POST-ER OFFICE) 他

※内容は企画者から提供を受けた資料に基づきます。

荒木優光「Acoustic Device - 騒音のための5楽章」

公募プログラム

展覧会



《男と女のエコー》2015 © 東山アーティストプレースメントサービス (HAPS) (参考画像)

内容:

2015年に「騒音」にまつわる作品を作った。インターネットで「騒音」と検索すると、苦情や定まらない定義や尺度など、行き所のない多数の声が散乱していた。そんな所在を無くした声を、街宣車に乗って高らかに、そしてある時は密やかに、代理で発声した。その記録を、ビルの屋上で展示した。

音声記録で構成した音空間は、追体験を繰り返し行うことができる。所在を無くした音や声に、新たな所在を与える、または替えてみる。さまようものに場所を与え、一つの提示として共有すること。そんな生まれ変わりを繰り返す場が描ければと考えている。

企画者プロフィール: 1981年山形県生まれ。京都在住。京都造形芸術大学映像・舞台芸術学科卒業。アーティスト、音響・音楽家。劇場上演実験《showing》の企画・運営や、記録にまつわる作業集団 ARCHIVES PAY ディレクター。バンド NEW MANUKE のメンバーとしても活動。

POST-ER OFFICE 実行委員会「POST-ER OFFICE」

公募プログラム

オープン
ディスカッション

内容:

芸術の現場では、種々の思いや疑念、躊躇や確信が、日々生まれては消えていっている。ここでは、芸術表現の「過去」、「現在」、「未来」に関連する種々の声や思い、願い、訴えを、ポスター化・ステートメント化してみることで、あらたな提案や、議論のポイントを生み出すことができるのではないかという考えに基づいて、ポスターの展示およびテンポラリーなオフィス機能を核とする、ポスター・ベースの議論のためのプラットフォームの構築を目指す。

企画者プロフィール: アーティストコレクティブの blanClass、CAMP、基礎芸術からなる本展の為のプロジェクト。

■企画情報 [プロジェクト B]

Part 2

会期 | 2016年11月26日(土) - 12月25日(日)

オープニングトーク | 2016年11月27日(日) 15:00 - 17:00 出演: 永田康祐、柯念璞 ほか ※日英逐次通訳あり

※内容は企画者から提供を受けた資料に基づきます。

永田康祐「Therapist」

公募プログラム

展覧会



《Translation》2016 (参考画像)

内容:

永田康祐は、メディアとイメージの関係を扱った作品を通じて、私たちの認識のありかたを問い直すような試みを行ってきました。本展では、写真や映像、3DCGなど、デジタル／アナログを問わず様々なメディアを用いて、作品の物質的な条件における主従関係と、そこにおける私たちの認識のずれを扱います。台座と立体作品、基材と顔料、ディスプレイと映像といった、作品の成立条件を解体していきながら、私たちの鑑賞行為自体の再構築を試みます。

企画者プロフィール: 1990年愛知県生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修了。主な展覧会・プロジェクトに、「無条件修復」(milkyeast、東京、2015)、「マテリアライジング展 III」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA、2015)、「これもまた、それである」(東京芸術大学芸術情報センター、2015)、「類推する形態」(Hagiso、東京、2014)などがある。

柯念璞 (コー・ネンブ)「旗、越境者と無法地帯」

公募プログラム

展覧会



(参考画像)

内容:

1946年に東京渋谷で勃発した在日台湾人と警察との間の抗争、通称「渋谷事件」は、台湾、中国、日本及びアメリカの権力関係の下、身分と国籍をめぐる複雑な問題に起因し、当時の国際社会で注視と抗議を引き起こした。本企画は「渋谷事件」を、戦後史上の特異な点として捉え、変動する国家権力と国境線の下で個人が直面した赤裸の状態を見つめ直す。アジア出身の四名の作家の視点から、その歴史を顧み、越境を通じて人の境遇、人間、場所、故郷の意義を問う。

キュレーター: 柯念璞 (コー・ネンブ)

参加アーティスト: 藤井光、琴仙姫 (クム・ソニ)、高俊宏 (カオ・ジュンホン)、區秀詒 (アウ・ショウイー)

企画者プロフィール: キュレーター。台湾在住。近年は香港、韓国、マレーシアなどでの都市研究とアートプロジェクトに参加し、長期に渡り東アジアの植民地史、社会運動、芸術、都市空間などのテーマについて研究を進めている。

■公募プログラム 募集概要

募集期間：

2016年4月15日（金）－5月23日（月）

応募総数：

プロジェクト A: 111 企画 / プロジェクト B: 148 企画 計 259 企画

審査員：

三輪真弘（作曲家、メディアアーティスト、情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 教授）

畠中実（NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] 主任学芸員）

杉田敦（美術評論家、女子美術大学教授）

今村有策（トーキョーワンダーサイト館長）

黒田みのり（トーキョーワンダーサイト事業課長）

■オープンサイト Part 3, Part 4 のご案内

Part 3 | 2017年1月14日（土）－2月12日（日）※オープニングトーク：1月14日（土）

〔プロジェクト A〕

いまいけぷるじえくと（日本）「今村俊博×池田萌 第5回パフォーマンス・デュオ公演 音楽のバウンダリー」

絶対的（香港/日本）「彼と私」

小森はるか+瀬尾夏美（日本）「上映とトーク『波のした、土のうえ』」

〔プロジェクト B〕

フィオナ・アムンゼン（ニュージーランド）「アーセナル・オブ・デモクラシー」

ユナイテッドピープル株式会社（日本）「未来を創る映画館展」

Part 4 | 2017年2月25日（土）－3月26日（日）※オープニングトーク：2月26日（日）

〔プロジェクト A〕

児玉北斗（スウェーデン）「Tragedy 1769」

素我螺部（日本）「SELL OUR BODY ExP」

つむぎね（日本）「○」

〔プロジェクト B〕

井上亜美（日本）「猫師の生活」

ハビエル・レオン・ボルハ（エクアドル）「ロング・ナイト」